



はじめに

人と自然の博物館（ひとはく）は、2021年度も、調査・研究、資料収集、展示、セミナー、アウトリーチ、シンクタンク、ジーンバンク、データバンクなどの活動を精力的に進めてまいりました。

調査・研究については、淡路島で発見された恐竜化石や篠山層群で発見された世界最古のドクトカゲ類化石をそれぞれ新属新種として命名するなど、世界的にも重要な研究成果を数多く出すことができました。また、篠山層群の岩砕から化石を取り出す「化石剖出ボランティア」や同層群の「石割調査ボランティア」の募集を継続するなど、化石研究を共に推進するパートナーの確保・育成に取り組みました。

展示では、国内トップクラスの収蔵点数を誇る当館の鳥類標本を多数紹介する収蔵資料展「ひとはくの鳥類標本をお見せします！」を開催したほか、海の底に生息する生物（ベントス）を様々な角度から紹介する展示特別企画「身近な海のベントス展」を開催しました。

セミナーでは、研究員や連携活動グループ等による事前申込制の専門的なセミナーを112回開催したほか、来館団体向けのセミナー（特注セミナー）を151回、来館者が当日に予約なしで参加できるセミナー（オープンセミナー）を662回開催しました。また、収蔵資料をテーマ毎に蔵出しする収蔵資料スペシャル企画「標本のミカタ～コレクションから新しい発見を生み出す～」を全6回開催するなど、普段公開していない標本・資料の積極的な活用を図りました。

このほか、新型コロナウイルス感染症への対策として、動画サイトで視聴可能なオンラインセミナーやオンライン展示解説の充実を図るとともに、恒例の市民研究発表会「共生のひろば」をオンラインで開催しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により当館を取り巻く状況は大きく変化しました。こうした中、当館の運営を様々な面で支えてくださいました皆様に心からお礼申し上げますとともに、引き続き温かいご支援をたまわりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

兵庫県立人と自然の博物館
館長 中瀬 勲